



2023

11
Vol.65

社会福祉法人すこやか福祉会
発行日:2023年11月6日 第65号
本部事務局 住所:〒120-0023
東京都足立区千住曙町4-16
TEL:03-5813-9251

住みなれたまちで

11月1日合流の世田谷区・流山市 6事業所紹介

【世田谷区】桜丘ケアセンター(高齢者福祉複合施設)



桜丘ケアセンターは千歳船橋駅から徒歩12分、閑静な住宅街にあります。居宅介護支援事業所・訪問介護・通所介護・認知症対応型共同生活介護の4事業所がある福祉の複合施設として、医療と福祉のネットワークで地域の暮らしを支えつづけます。



① 在宅支援相談室桜丘

世田谷地域における介護相談窓口として経験豊富なケアマネジャーが、おひとりおひとりの価値観に沿ったケアプランを作り、在宅生活継続を支援させて頂いております。週1回事業所会議では、個別ケース検討行っておりケースについて事業内全体で共有し、チームで改善に向けて日々取り組んでいます。桜丘ケアセンター内の併設事業所(通所介護、訪問介護、グループホーム)とも連携が取りやすい事が特徴です。



③ ヘルパーステーションさくら

職員10名(常勤4名、非常勤6名)で現在64名のご利用者様へホームヘルプサービスを提供しています。



今年4月に初めて新卒の男性常勤ヘルパーを採用しました。それがいいきっかけとなり職員が初心に帰ることで新たな気づきがありました。いろいろな刺激を受けながら、日々の業務にあたって皆、明るく元気に世田谷のまちを訪問しています。

② デイサービスセンターさくら草

朝の挨拶からお帰りになるまで、気持ちよく過ごしていただけるよう、職員一同取り組んでいます。また10月からはリハビリも開始いたしました。やはりニーズは高く、リハビリの視点を持ち、体操・レクリエーション活動を行うことで、利用者様に活気が出てきました。併設事業所と連携を取り、困ったところの手が届く、そんなチームケアを目指しています。



④ グループホームさくらの家

2階3階に各9名、2ユニット、18名の入居者様が共同生活をしています。

認知症を患っていても、その人らしく、心穏やかに生活ができるよう支援しています。コロナ感染症が5類へと移行し、少しずつレクリエーション活動も増えてきました。デイサービスセンターさくら草に参加し他者との関りの機会を作っています。今後は入居者様と一緒にレストランやカフェに出かける計画を立てたいと考えています♪



【千葉県流山市】2 事業所

⑤ 小規模多機能サービス ひまわりの家

ひまわりの家は、流山市中部地域に位置し、開設 16 年目を迎える小さな施設です。訪れた方からは、「アットホーム」「介護施設というより家みたい」「距離が近い(せまいもんで)」との感想をいただくことが多々。見方を変えればデメリットもメリットに思えることも少々。そんな中、「住み慣れた地域での暮らしを続けたい」の想いを支える存在になり得るのか！？…現在スタッフ奮闘中です。



⑥ ヘルパーステーションきずな

ヘルパーステーションきずなは、2000 年に千葉県流山市北部の江戸川台に東葛病院の職員や友の会、地域の方々の方で NPO として立ち上げ、2017 年に東京さくら福祉会に合同した訪問介護の事業所です。

地域の高齢者・障害者の訪問介護と、東葛病院の透析患者の送迎を行う通院等乗降介助を行っております。



公式ホームページのご案内

最新の法人情報やスタッフブログ等更新しております。



特集 アフターコロナ

～日常回帰に向けた取り組みを紹介～

4年ぶりの葛飾納涼花火大会
改装した屋上で鑑賞

特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷

7月25日、4年ぶりとなる葛飾納涼花火大会が行われました。

当日はベランダや屋上に出て、今か今かと花火が上がるのが待ちきれない声が多く聞こえ、期待に胸躍らせている方がたくさんいらっしゃいました。また、感染予防のために階ごとの移動を制限していた

ため、改装した屋上を初めて見る利用者が多く、「こんなにきれいになっていたんだ」と驚く声も多くありました。



いざ花火の一発目が上がると「おおー」「来た来たー」と声が上がリ、『ドーン』と花火が鳴ると「わーっ！」と歓声が上がったり、拍手をする方がいらしたりと、待ってましたと言わんばかりの大盛り上がりでした。大きな花火が『ドーン』と上がる場面や小さな花火が細かく何個も連続して上がる毎に皆様は顔を上げ、「たまーやー！」とおっしゃる方もいれば、笑顔で拍手をし続ける方もいたり、大盛り上がりの末、花火大会は無事に終了しました。

コロナの影響が落ち着いてきている中、以前のような家族の皆さんやボランティアの方を招いての催しができるよう、職員一同頑張ります！！

生活援助員 高田 剣

「夏祭り」2 日連続開催で大盛況！

デイサービスセンターみたて

昨年から復活した夏祭り。
今年も 2023 年 8 月 18・19 日 2 日間、夏祭りを開催しました。

コロナが 5 類移行となり制限が緩和となった為、ボランティアの方に多く来ていただくように社会福祉協議会主催の「夏のボランティア説明会」にオンラインで参加し、昨年の様子をパワーポイントで中・高生に向けプレゼンテーションをしました。

しかし、期限までに集まりが少なく社会福祉協議会に相談し、中・高生だけでなく、年齢層の幅を広げて募集をしました。最終的に会社員 2 名、中学生 4 名の方が集まりました。その他インターシップ大学生 2 名、近所の学童クラブ職員 2 名等、合計 12 名のボランティアを集めることが出来ました。ボランティアの皆さまご協力いただきありがとうございました。

また、コロナ禍で、入職した職員は「夏祭り」ってどんな風にするの？と理解するのが難しい様子でした。過去に行った夏祭りの写真を A3 用紙 1 枚にまとめ、職員に雰囲気分かるように作成し、写真を説明しながら、イメージを伝えました。

「夏祭り」開会宣言後、夏の風物詩「スイカ割り」を行いみんなで声を出し合い、盛り上がっていました。

無事、怪我もなく終了することが出来ました。来年も楽しんで頂けるようにいろいろなゲームなど考えていきたいと思っています。

所長 湯田 達也



「敬老の日」保育園児との交流

小規模多機能サービス よりみちの家



こんにちは！足立区柳原にある「よりみちの家」です。コロナが 5 類移行になり半年が経ちました。皆様変わらず感染対策に気を揉んでいるとは思いますが、街の活気も徐々に戻りつつありますね。

よりみちの家でも少しずつ外部との関わりも増やしています。直近で言うと、向かいにある保育園との交流がありました。

園長先生からのご提案ではありましたが、9 月 15 日の「敬老の日」に、年長組の代表 7 名が顔を見せに来てくれました。自己紹介から始まり、踊りに歌、ゲームと、存分に楽しく微笑ましい時間を過ごせました。やはり子どもはパワーがありますね。ご利用者様も「かわいかった」「上手だった」と終始笑顔で過ごされておりました。

とても良い時間だったのですが、交流という少し業務的になってしまう面もあります。こちらからもどんどん街に出て日常に溶け込み、よりみちの家も住民がふらっと立ち寄れる、日常の中にある、そんな場所になればよいなと思っています。

所長 横尾 宏樹



入居者様と共に楽しめる企画で グループホームすこやかの家 業平

好きな物を食べ、行きたい場所に行き、大切な人と会う。「自由であること」は、人の持つ欲求・権利であり…時に安全よりも大切な生きる上で欠かせないものではないでしょうか。

コロナ禍で自粛ムード一辺倒だった 2022 年。当施設では、偶発的に 4 名が亡くなりました(老衰等)。外出や面会もままならず、葬儀も満足に行えない。そんな入居者様を想い、5 類感染症移行直後から、with コロナを主眼に置いた取り組みを、早々に行う事としました。



事業所屋上でのテラスパーティー、入居者様同士の顔が見える様パーティーション撤去、近隣公園や神社への散歩は、十分な感染対策の中行えます。

自治体からの、面会や対面での運営推進会議の推奨も日常回帰チャンス追い風。地域の皆さまから、イベント情報の提供。

『牛嶋神社大祭・本祭り』、『JAZZ フェスティバル』、神社使用許可を頂いての『花火会』人員体制を配慮し、日常業務の見直しや改善を行い、昼夜を問わないイベント実施の運用に尽力しました。

これからもスタッフ、入居者様、共に楽しめる企画で win-win に！そして、家族や多職種、ボランティア等、地域も巻き込んだイベントに発展していきたいと思ます！

介護業界は、日々進化の毎日です！

ホーム長 紙屋 友信



コロナ禍の 4 年、見えないウイルスとの戦いに、様々な情報をもとに、消毒・検温・ひとり一人の行動把握・部屋での過ごし方を始めとする「3密」を避ける日常生活や行事の在り方などひとつひとつ話し合い取り組んできました。

保育園・学童において「3密」を避けるというところでは、子ども達が育ち合う自然に手をつないだり、体とぶつかりあったりくっついたりすることは、子どもの成長発達にとってもおおきな意味を持ちます。

また、遊びの中で成長する子どもの姿を、保護者と共に共感する大切さを感じる中では、試行錯誤の繰り返しでした。行事においては、人数制限のためひと家庭 1 名の参加、必ずマスク着用、ひとり 1 人の間隔をしっかりとる、人と人が繋がって行く上で大切な会話もままならない状況でした。

4 月より 5 類となりまだまだ、感染予防は必要ですが、以前の保育園・学童の生活が戻りつつあります。

シールドで囲まれ黙食での給食も、お友達と顔と顔を向き合わせ「おいしいね」など会話も弾み食も進みます。「プール遊びや水遊び」「親子で遊ぼうデイ」「運動会」「バザー」など大人も子どもも心弾むような会話が戻ってきています。

お日様に向かって弾ける水しぶきのように子ども達の笑顔が輝いています。それを見守る大人の眼差しは暖かいです。

保育事業部長 松岡 愛子

